

旭

印刷を支え加工を活かす

村上裕一

工場本部 瓜破工場 折部門

高校卒業と同時に、旭紙株式会社へ入社した村上裕一さん。瓜破工場の折部門に配属され、約16年間従事してきました。自身の体調不良をきっかけに、今後は管理業務への移行が決まっています。次なる業務に向かつて気持ちを新たにしている村上さんに、これまで取り組んできたことや、今後の目標などを伺いました。

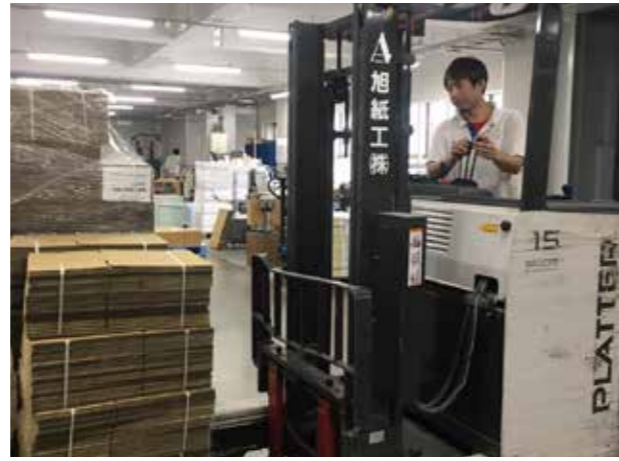


— 現在は業務を移行中とのことですが、どのような仕事を担っていましたか。

今までは、機械の設定をするオペレーターを務めていました。「いかに生産性を上げるか」という点にこだわり、課長と相談しながら機械を整備する毎日でした。機械とは不思議なもので、毎回同じようにはいきません。昨日はスムーズだったのに、今日は調子が悪いという時もある。数時間でガラリと悪くなる場合もあります。天候や気温、湿度などを確認しながら、効率良く、不良が出ないように調整する仕事です。

— オペレーター業務でこだわった点や、気をつけていたことを教えてください。

頭より、体を動かすことでしょうか。8割以上は夜勤を担当していましたが、昼勤時間帯の生産量に負けないよう取り組んでいました。ですから、誰よりも多く現場で仕事をこなしてきたという自信があります。生産性を上げるために、作業員の手が止まらないよう、製品をスムーズに流していくことに注力しました。皆で協力して声



掛けをしながら、粘り強く作業に集中したものです。

— この仕事を通して得たものや、学んだことはありますか。

やはり、仕事に対する責任感ですね。20代の前半から夜勤の責任者を任せられ、夜間にイレギュラーな事象、例えば不良が出た時などは、自ら判断して対処しなければいけません。一歩間違えると事故に繋がるような状況もあり得ますので、非常に気を遣います。このような場合、「上司だったらどのような判断するか」と考え、どう対応

するかを決めて行動します。朝になって上司に報告する際、自分のとった対応が間違っていれば注意され、正しければ認められる。日々、この過程を繰り返しながら、自分の判断基準が固まってきたように感じます。そうして様々なパターンへの対処法を身につけ、叱られる回数も少なくなってきました。間違った時にはしっかりと反省するといった心構えも大切だと思います。

— 思わず辞めたいと思うような経験があれば教えてください。

個人的な話で怒られてしまいそうですね。入社当初からほとんど夜勤でしたから、同年代の友人と遊ぶ時間がなかったのです。金曜や土曜の夜など、誘いがあっても遊びに行けない。実はこれが非常に辛くて、辞めたいと思ったこともありました。

でも、そのうちに社内で気の合う先輩と仲良くなり、日曜日には一緒に飲みに行くように。それが大きな楽しみとなって、辞めたいという気持ちを乗り越えることができました。部門は異なりますが、今でも良い関係を築いています。

何でも話せる間柄なので、時には仕事の相談に乗ってもらうこともありますね。

— 今後はどのような業務に移行されるのでしょうか。また、新たな業務に対しての目標があればお聞かせください。

この先は管理業務に重点を置く予定です。今の体調に配慮していただきつつ、現場の予定管理や人材教育にも携わっていきます。人材教育に関しては以前から関わっていたのですが、自分の業務をこなしながらだと、なかなか難しかったというのが本音。今後は、今まで培ってきた現場経験を活かしていければと考えています。

目標は、夜の時間帯に一人で業務を回していけるような人材を育てること。今もよく頑張ってくれています。少し危ないと感じる場面があります。周囲の状況をしっかりと把握し、機械を適切に調整してもらいたい。一方で、トラブルに対応できる臨機応変さも求められます。まずは一人で経験してもらい、それから指導するという方法で、より技術を身につけてもらえるよう努めていきます。

長年の経験を活かして、現場で活躍する人材を育てようという決意する村上さん。ひたむきに邁進するその姿を、期待をもって見守りたいと思います。



企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：15億円
- ◆ 従業員数：200人

※ 2018年12月実績

設備紹介—正栄—



私が紹介
します！

工場本部 瓜破工場
折部門課長
寺山 幸作さん

ページ折を支える正栄とは、一体どんな機械なのでしょう。正栄が叶える効率の良さや精度の高さなど、正栄に精通している寺山さんにお話を伺いました！

ページ折に
なくてはならない
機械

Q.どのような設備でしょうか？

冊子やカタログなどの半製品を作るために使用する、ページ折を行うための専門機です。ローラーや寸法の調整、セットアップなどは全て手動で行います。特徴は、交直折が2回まで可能という点です。他の機械では別の機械を繋げないできません。しかし、正栄には本体にナイフが2つドッキングされているため、一台で可能となります。そのため、手間もかからず、セットの時間も大きく短縮できるという利点があります。また、正栄は国産のため日本人にあった分かりやすい作りのため扱いやすく、できる製品は抜群の精度です。

効率アップが
何よりも魅力

Q.現在の設備はいつ導入されたものですか？

15年前ほどから使用しているのではないのでしょうか。古い機械ではありますが、今でも現役です。他の機械でページ折を行うと3時間ほどかかるのですが、正栄ですとわずか30分以内でセットアップが完了します。1000~2000の小ロットで3時間のセット時間は効率が悪いため敬遠しがちだったのですが、正栄を導入してからは小ロットの注文も受けやすくなりました。

基礎が詰まった
機械

Q.使用するには資格や免許等は必要でしょうか？

必要ありません！使いやすい機械なので、簡単なものなら1か月ほどで使えるようになります。社内では「正栄を使えたら、他の機械も使うことができる」と言われるほど、基礎が詰まった機械です。正栄を使うための知識を応用してもらえれば、他の機械も使えるようになるのではないのでしょうか。

教育に力を
入れていきたい

Q.現在この設備を使用できる方は何名いますか？

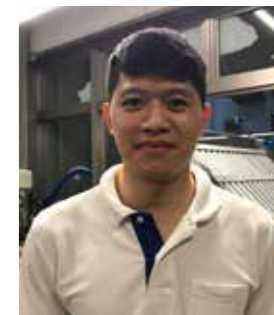
現在工場に27人ほどいるうち、7人が使用することができます。研修生にも教えているという段階です。特に海外留学生のタイ人の夜勤の方は、非常に飲み込みが早く思った以上に仕事ができるため、本来の業務ではないながらも教えたら2か月もせずにマスターしてくれました。

スピードに
目を見張ります

Q.その中で一番「達人」は？

社員でベトナム人のハイさんです。今正栄をメインで扱ってくれていますが、何よりもそのスピードが彼の持ち味。機械ごとの担当を決めそれぞれ専門性を高めようと思い、彼に正栄を任せることになりました。セットアップで他の皆が40分かかるところを、彼は20~30分で終わらせてしまうのです。仕事に対して一生懸命で、吸収力が高い方です。

ハイさん



ロスが
少ないからこそ

Q.使用上での注意点はどこでしょうか。

正栄は他の機械と比べてロスが少ないという特徴があります。良いことなのですが、それに合わせて、製本の際の紙の予備も少なくなっているため、注意しなければなりません。また、色周りや見通しなどで精度を求められるため、非常に気を使いながら作業を行っています。

1ミリのズレも
許されない

Q.その設備を使用しての一番思い出に残っていることはなんですか。

その設備を使用しての一番思い出に残っていることはなんですか。車のカタログは、他の仕事に比べて段違いの品質を求められるため、毎度神経を尖らせながら取り組んでいます。色周りや見通しなど1ミリのズレも許されないため、非常に高い精度が必要です。折だけではなく、その前工程である断裁などでミスがあると後に影響が出るので許されません。全ての工程で作業の正確性を求める声掛けを行い、逐一確認をして精度をあげていこうと一丸となって取り組んでいます。

みんなを一人前に

Q.今後の目標

今はセットアップができる人を増やそうと取り組んでいる途中で、当分の間はそれが一番の目標です。全ての機械に触れる人が自分を含めてまだ二人しかいないため、どんどん皆を一人前にできるよう育てていきたいと思っています。日々業務をする中で、何に時間がかかっているのかを確認したり声掛けを行ったりと、様子を常に伺いながら成長を先導しています。現在工場に機械は4種類あり、全て触れるようになることはなかなか難しいもの。最終的には一人前のスタッフを増やして、生産量を増やしたいという目標があります。

